

絵本でつながる読書習慣定着へ向けた取組

～絵本バンクと読み聞かせ推進活動を通して～

太田市 多田 雄一



1. はじめに

本レポートの目的

太田市では、様々な子育て支援を実施しており、「子育てにやさしいまち」のイメージをさらに向上させるべく既存施策の一層の充実を図るとともに、子育て世代の意見を反映する環境を整えることが重要である¹。

また子ども達が成長するにつれ、地域のことを自分事として捉えられる、創造性豊かな市民が増えることは、地域にとって非常に重要である。人々の創造性を育む方法の1つとして読書がある。またそうした読書の習慣をつけるためには、乳幼児からの絵本の読み聞かせが重要である。しかし、太田市子ども読書活動推進計画での課題として、親が読書習慣を子どもに身につけさせることの重要性を理解していないことや図書館を日常的に利用していない子どもに対して、読書の楽しさや大切さを理解してもらうことなどが挙げられている²。

そのため、このレポートでは、次世代を担う子ども達が創造性豊かな成長ができるよう、絵本が子どもにとって身近な存在となり、保護者が読み聞かせの大切さを理解し、読み聞かせを普及するための方法について検討し、不要な絵本と絵本を必要とする人を結ぶ絵本バンクと読み聞かせ推進のためのリーフレットや出前講座を提言する。

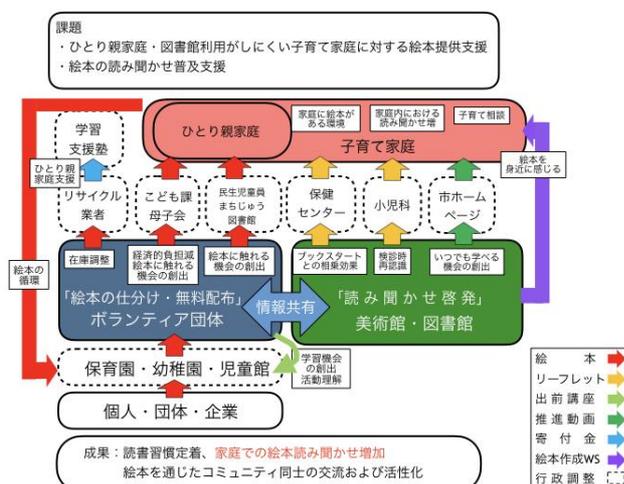


図 1 ポンチ絵 提言内容

2. 太田市の現状

(1) 太田市の概要について

太田市は、群馬県南東部に位置し、平成 17 年に旧太田市、尾島町、新田町、藪塚町の 1 市 3 町が合併しており、人口は平成 31 年末時点で約 22 万 4 千人の県内第 3 位の人口規模である。自動車メーカーSUBARU を筆頭にもものづくりのまちとして、二次産業が市内の経済を牽引している。その特性上、郊外に土地を求め工場や住宅地が広がった結果、中心市街地は衰退していった。

現在、太田市としては、まちづくりを見直し、中心市街地を再度まちづくりの中心としたい考えがある。太田市のほぼ中心に位置する太田駅周辺の整備は平成 8 年から始まり、平成 21 年度には太田駅北口駅前広場が移転整備された。しかし、周辺商店街の衰退が著しく、この区域に人を呼び込む核となる施設の整備が急務となっていた。そこで、図書館と美術館機能を活用した文化交流により、駅周辺の賑わいを図り、人々を呼び込むことを

めざした³。その結果、太田駅の北口には市民が情報を得ることや様々な体験ができる集いの場として、太田市美術館図書館が完成した。

(2) 太田市美術館図書館の概要とコンセプトについて

太田駅での1日平均の乗降者数は10,000人を超えるものの、通勤通学を目的とした利用者が中心となっている。そのため、日中の駅周辺の人の流れが少なくなってしまうことが以前から課題とされていたため、駅周辺に賑わいを図るための施設整備基本方針が出来上がった。以前より市民アンケートでは図書館機能の整備充実や、文化財や市民レベルの作品しかない美術館に対し不満の声があった。そこで平成25年に、平日昼間に外出可能な方へのアンケートを市内4図書館、児童館およびこども館利用者に実施した。結果として併設カフェや居心地の良い空間滞在、芸術・文化に触れる機会を求めていることが分かった。そこで、太田市美術館図書館は既存図書館と比較し、より敷居が低いサテライト的な位置づけとし、日常的に図書館を利用していない層を取り込み、市民の暮らしを支援する機能を持たせ、戦略的に既存図書館の活性化へつなげていくことを目的とした³。また市民、通勤・通学者や行政、建築家、図書館や美術館の専門家を交えたワークショップを平成26年5月から翌年11月までの間に計10回実施し、市民の意向を取り入れて完成した施設となっている⁴。

合併以前の各町にあった図書館は今も4つの地域の図書館として残っている。それら図書館と太田市美術館図書館が違う点は、先ほどのワークショップによる市民の意見が取り入れられ、図書館機能の他に美術館機能やカフェが併設され、新たな価値を提供する施設である点だ。また蔵書および貸出において、絵本などの児童書の取扱割合が市内だけでなく、県内の図書館の平均よりも高い(表1)。

令和2年度	(%) 小数点以下四捨五入					
蔵書	中央図書館	尾島図書館	新田図書館	藪塚本町中央図書館	太田市美術館図書館	※群馬県市町村平均
総計	325,894	78,648	171,251	77,378	44,172	236,340
うち児童書	60,198(18%)	20,317(26%)	44,529(26%)	30,277(39%)	17,621(40%)	62,759(27%)
貸出						
総数	317,756	74,692	138,079	73,342	43,977	157,943
うち児童書	105,310(33%)	30,836(41%)	47,837(35%)	28,305(39%)	33,498(76%)	57,117(36%)

※群馬県内の市町村図書館41箇所(県議会・点字・県立除く)の平均値を筆者が算出

表1 太田市各図書館の蔵書および貸出しについて

また、他の市内図書館にはない、高価な海外の絵本の取り扱いも豊富であることも特徴の1つである。これらの理由として、施設の整備基本方針に子育て世代の読書環境の整備があったこと、またワークショップのなかで、海外の絵本や英語で書かれている本、家で買えないような高額な絵本という具体的な意見が出ていたことも大きい。そのため、現在の選書方針の柱の1つにこうした子ども達の創造性を育む絵本や児童書が挙げられている。また、この太田市美術館図書館における、図書館機能と美術館機能が連動した取組として、美術館では国際絵本原画展を行ったり、図書館ではこの原画展に関連する絵本の企画展を行ったりするなど、誘客の相乗効果を狙った取組が行われている⁴。

太田市美術館図書館は、まちに創造性をもたらす知と感性のプラットフォームというコンセプトのもと、人々の感性を刺激する多彩な美術作品と、創造的発想の源泉となる広範

な知識を提供する図書資料を、同時に閲覧できる場所の提供をめざしている。また、場の提供だけでなく、次代を担う人材やプロジェクトの育成をめざし、事業計画、運営に市民が主体的に参加し、市民とともにこの太田市美術館図書館の運営をめざしている⁴。

施設での具体的な取組は、職員やボランティアの方による絵本の読み聞かせ、子ども落語ワークショップ、図書館まつりや児童書専門の国際見本市が主催するコンクール入選作品の原画展を行うなど、美術館や図書館で子ども向けに様々なイベントを実施している。また、館外での取り組みとして市内の商店や事務所、個人宅にある本を各店舗に配置し、訪れた人や館長との会話を楽しむ「ふれあい」の図書館であるまちじゅう図書館も展開している。

今回の提言内容に類似したものとして、保存期間が満了となった約 250 種類の雑誌を希望する方へ無料で配布する古雑誌市を図書館まつりなどのタイミングで実施している。また、中央図書館では、本のいちばという図書館で使われていた本を無料で配布する取り組みを不定期で開催している。いずれも絵本に特化したものではなく、また図書館へ決められた日に来館することが前提であり、今回の提言に合致したものではない。

このように太田市美術館図書館では次代を担う人材である子どもに対して様々な取組を行っている。

(3) 太田市における子育て支援事業について

太田市美術館図書館における子ども向けの取組について先述したが、市として他にも様々な子育て支援を行っている。具体的には、第2子以降の給食費の助成や第3子以降への祝い金、保育料の免除、児童医療費の公費助成など子育て世帯に対する経済的サポートを数多く行っている。市民満足度アンケートにおいて子育てに関する児童福祉の推進項目の満足度は、24項目中第3位と非常に高い⁵。こうした支援事業の成果が市民の満足度として現れている。また、こうした経済的サポートだけでなく、太田市では子どもが生まれた家庭に対し、絵本とアドバイスブックレットを配布するブックスタート事業も行なっている。この取組は、市内在住で子どもが1歳の誕生日を迎えるまでに、図書館へ母子手帳を持参すると絵本がもらえる。平成30年度では、1,846人⁶の出生数に対し、98.4%にあたる1,817組に絵本を渡している⁷。こうして家庭の事情に関係なく、子どもが絵本に触れる平等な機会を確保している。

このブックスタート事業は、1992年にイギリスで始まった活動であり、民族や社会経済的な差、個人的関心の違いなどに関わらず、すべての赤ちゃんに平等に言葉や文字に出会う機会を提供することをめざして誕生した。日本においては主に親子のふれあいを図ることが目的とされている。ブックスタートの効果として母親の絵本への興味関心が喚起されたり、家にある本を見たり、子どもに読み聞かせをする機会が増すなどの具体的な母親の行動変化が示されたりしている⁸。

令和3年3月時点で、全国の78.6%にあたる1,368市区町村でブックスタート事業が広まっている⁹。つまり、多くの自治体で子育てにおける絵本の重要性を認識していることになる。そして、まだ導入自治体は少ないものの、その後の子どもの成長に合わせ、2冊

目の絵本の配布をするブックセカンド事業も少しずつ広まっている。太田市ではまだブックセカンド事業は実施されておらず、行政から配布される絵本はブックスタート事業における絵本のみであり、その後の公的な絵本支援は今後の課題として捉えられる。

3. 読書習慣について

(1) 乳幼児期における、読み聞かせの重要性

それではここから読書習慣をつけるために大切な乳幼児期における絵本の読み聞かせの重要性について述べたい。

まず、乳幼児とは乳児と幼児を合わせた呼び名であり、生まれてから義務教育年齢に達するまでの者を指す¹⁰。こうした乳幼児期における絵本の読み聞かせは、子どもの自己形成や共感性、協調性を育てるなど、情緒や対人関係の発達に関係し、その後の主体的な読書活動にもつながってくる。この主体的な読書活動は、子どもがことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにしていくうえで欠くことのできないものである。特に乳幼児期において、読書は絵本が主体であり、親子間の情緒的つながりの面でも大きい。読み聞かせの重要性は分かっているが、どのように読み聞かせたら良いか、またどんな絵本を選べば良いか分からない親が多いことも事実である¹¹。

ベネッセが年少児から小学1年生の子どもを持つ母親5,016名を対象に行なった調査では、年少から学年が上がるごとに絵本や本を介した親子の関わりが減っている様子が伺えた¹²。また他の調査で、1ヶ月間に1冊も本を読まなかった不読者を調べた結果、平成18年では、小学生6%、中学生22%、高校生50%、平成30年度年では小学生8.1%、中学生15.3%、高校生55.8%と学年が上がるにつれ子どもが本を読まなくなる傾向があった¹³。また、家庭の蔵書の数が多いほど、家庭での読み聞かせ行動も多くなる傾向があり、読み聞かせの頻度は、その後の子ども自身が自分で本を読む習慣に関連があることもこの調査では分かった。つまり、読み聞かせは子どもの読書習慣をつけるためには重要な行動と読み解ける¹²。

日本経済研究所の調査のなかで、「家に本をたくさん置く」、「図書館へ連れて行く」などの支援を保護者がしている場合、その家庭では本を読むことが好きな児童・生徒の割合が高いことが分かった¹⁴。脳科学的な観点からみると、読み聞かせをすると子供は安心感を得ることができ、絵本を読んであげる時間は親の愛情を伝え、絵本の中の肯定的な言葉は子供が未来に自信を持てるようにするということが実証されている¹⁵。つまり、読み聞かせは子どもの成長に良い影響を与え、親子のつながりを強くする。また、子どもは成長するにつれ本を読まなくなる傾向があるため、子どもが小さい頃から家に本を置き、読み聞かせの習慣をつけ、その後の子ども自身の読書習慣へつなげていくことが重要である。

(2) ひとり親世帯の状況

ここまで乳幼児への絵本の読み聞かせに対する重要性を考察してきた。家庭で保護者が子どもへ定期的に読み聞かせを行うことが理想ではあるものの、家庭によっては読み聞か

せを行うことが難しい家庭もある。少ない収入で家計をやりくりするなかで、絵本の購入費を捻出できなかつたり、仕事や家事に追われ、図書館を利用できないなど、子どもが絵本を手にする機会が作れなかつたり、読み聞かせの時間を確保できない家庭もある。

平成 18 年 7 月に経済協力開発機構（OECD）が対日経済審査報告書にて、日本の相対的貧困率が OECD 諸国の中でアメリカについて第二位であると報告した。そのなかでも日本の母子世帯の貧困率が突出して高く、特に母親が働いている母子世帯の貧困率が高いことが指摘された。また平成 16 年の「国民生活基礎調査」でも母子世帯の貧困率が突出して高く、母子世帯の半数以上の割合が貧困状況にあることが分かった¹⁶。太田市では平成 27 年時点で母子世帯が 1,460 世帯ある¹⁷。先ほどの母子世帯の半数以上が貧困状況ということであるならば、乱暴な計算だが、単純に太田市には、730 世帯が貧困の生活水準になることが推計される。総務省統計局の家計調査によると、調査期間 10 年の間で書籍購入の支出金額は年々下がっていることが分かった¹⁸。公共図書館の利用者数も下がっており、これは子どもに対し絵本を買い与えたり、図書館で借りてきたりするなどの絵本に触れる機会の減少が危惧される。以上のことから、ひとり親世帯において絵本の取得や絵本の読み聞かせ実施は困難な状況が想像される。

4. 絵本を介して人々が結びつく事例について

それではここで他地域における、絵本を介して人々が結びついている事例について触れてみたい。

(1) 奈良県社会福祉協議会「絵本でつなぐ笑顔の活動」

奈良県社会福祉協議会は、平成 29 年にオリジナル絵本である、「おなまえは？」を 30,000 部作成した。「こんにちは赤ちゃん訪問」や保健センターでの乳児検診時、地域でのサロン活動などの機会に訪問の可否を確認し、民生児童委員がこの絵本を携えて県内の子育て家庭を訪問し、顔の見える関係性を築きながら、地域での子育てを応援している。

一度絵本を持っていっただけでは関係性は続かないため、引き続き違った絵本を届けるため、エコ本サイクル事業を展開している。これは家庭で眠っている絵本の寄付を募り、いただいた絵本を地域で必要としている家庭や気がかりな家庭へ提供することで、子育て家庭を応援するとともに生活に困窮されている家庭等への寄り添いや見守り支援に取り組む事業を進めている¹⁹。

最近では家庭訪問を断られるケースも増えているため、ただ突然訪問するだけでなく、絵本を持参することで玄関のドアを開けてもらえる可能性が高まる。そこで家庭での困りごとなどを引き出し、関係機関につないだり、解決を手伝ったりすることで地域の子育てを支援している。

(2) 東京都町田市「旅する絵本」

東京都町田市では有志が実行委員会を立ち上げ、「旅する絵本」という取組を行っている。この取組は、絵本を人から人へつないでいき、絵本を介したコミュニティを作ることが目的である。具体的にはまず誰かに読んでもらいたい絵本を自分で選ぶ。続いて旅のき

ろくカードという、感想を書くシートの 1 人目の部分に自ら感想を記入し、選んだ絵本にセットする。その後町田市内の各所で絵本を 2 人目に手渡し、渡された人は絵本を読んで、シートに感想を書き、1 ヶ月をめどにその絵本とシートを知り合いに渡していくことで、1 年間に 12 人とのつながりが生まれる仕組みである。渡している様子の写真や、受け取った人の感想等を随時インターネット上で公開し、1 年後もしくは旅のきろくカードの記入欄が感想で全て埋まった絵本は回収し、旅した記録をインターネット上やイベント等で公開する。渡す人がいない場合は、市内に専用の本棚も設置してあり、そちらに本を返してもよい。参加したい人はこの専用の本棚から絵本を持ち帰ってもよいという仕組みである。実際に令和 3 年 12 月 4 日時点で、こうした旅をしている絵本は 1,160 冊ある。またホームページ上では様々な絵本の感想や、人から人へ絵本が手渡されるシーンの写真が数多くアップされており、絵本を介したつながりが生まれている²⁰。

(3) 鳥取県「リーフレット作成及び保護者向け絵本読み聞かせ講座講師派遣」

鳥取県教育委員会では、家庭での読み聞かせ啓発に向けた、体にごはん、心に絵本という保護者向けのリーフレットを作成し配布している。このリーフレットは絵本の読み聞かせの大切さや子どもの成長に合わせた絵本の選び方などが載っている²¹。

その他に平成 23 年度から幼稚園・保育園における保護者・職員の研修会や読み聞かせボランティア等の研修会へ鳥取県子ども読書アドバイザーの派遣を行っている。読書アドバイザーは、読み聞かせの方法や絵本の選び方などを参加者へ直接伝えている。

この読書アドバイザーというのは、教育委員会が実施する研修を受けた方が読書アドバイザーとしての資格を持ち、活動している。読書アドバイザーを派遣する際の交通費や謝礼などは、鳥取県が負担するため、読書アドバイザー派遣を依頼する側としては最小限の負担で依頼することが可能である²¹。

5. 提言

ここまでの内容を整理すると、乳幼児期における絵本の読み聞かせは、その後の読書習慣定着や対人関係の発達に関係する。また、読み聞かせを保護者から行うことで子どもと保護者の情緒的結びつきや信頼関係構築など様々な面からみても重要であることが分かった。しかしながら行政として、ブックファースト以降に絵本を渡す仕組みがないことや図書館利用者の減少、ひとり親世帯の貧困などから、子どもにとって身近に絵本がある環境を作ることが難しい家庭がある。その原因として考えられるのは、絵本購入費用にまでお金をかけられないことや図書館を利用する時間が確保できないことなどである。太田市では図書の配達サービスを行っているものの、こちらも登録の手続きや手数料が発生してしまう。

絵本を購入する場合も、何冊も購入すると結果的に高額となり、絵本を保管する場所も必要である。では、無料で絵本を受け取れ、返却を気にせずに家庭で読み聞かせを行い、好きなタイミングでその絵本を手放すことができれば、絵本の購入時や図書館利用時に抱えていたストレスの軽減につながり、家庭の絵本が増えるきっかけにつながるのではない

だろうか。また、読み聞かせの持つ重要性や方法が分からず、家庭での読み聞かせを敬遠してしまいがちな保護者に対し、改めてその重要性の理解を促すことは、子どもに対する読み聞かせの機会が増えることにつながるのではないだろうか。そこで太田市として、絵本が不要な人と必要な人をマッチングさせる絵本バンク、子育て世帯へ向けた絵本の読み聞かせの推進、実際に関わる方々の整備について検討したい。

(1) 絵本バンク

絵本バンクとは、様々な理由で読まなくなり、家庭で不要になった絵本を回収し、絵本を必要とする人へ手渡す仕組みである。この仕組みは大きく分けると絵本の回収、仕分け・修理、配布という3つのステップで構成される。また、この事業の活動主体は、後述するボランティア団体を設立し、太田市美術館図書館が事務局として公民が連携して取り組んでいくことを想定している。

まず、絵本の回収であるが、市内の保育園、幼稚園、児童館など子育て世帯が往来する施設やまちじゅう図書館各店舗に対し、事務局が調整し絵本回収ボックスを設置させてもらい、個人や団体、企業等から不要となった絵本の寄付を募る。設置後、市の広報や各施設の利用者向けのお便りなどでBOXの存在の周知を定期的に行う。

続いて仕分け・修理であるが、回収した絵本をボランティア団体が絵本の状態から、次の三段階に仕分ける。傷や汚れの少ない状態の良い絵本、傷や汚れはあるものの読むには支障がない状態が中程度の絵本、傷や汚れが酷く、読むには支障をきたし、明らかに貰い手が見つからないであろうという廃棄絵本への3段階に仕分け、必要に応じて修理を行う。

次に、絵本の配布についてだが、絵本の状態によって配布先を検討する。状態の良い絵本については、経済的理由により新品の絵本が届きにくいことが推測されるひとり親世帯へ、状態が中程度の絵本については広く子育て世帯へ配布する。ひとり親世帯に絵本を持って帰ってもらうために、市役所子ども課や社会福祉協議会にある母子会窓口配置する。子ども課に設置する理由は、ひとり親世帯は児童扶養手当の支給対象であり、太田市では平成31年度末で1,514人おり、その手続きで訪れることが予想されるからである¹⁷。またひとり親世帯等に向けた活動をしている母子会の窓口も同様にひとり親が訪れるため、こちらにも配置する。

状態が中程度の絵本については、民生児童委員が中心となり市内12カ所で行われている子育てサロン事業や、まちじゅう図書館各店舗へ訪れた人が絵本を持ち帰ることができることとする。子育てサロンで配布する理由として、各地区で行っているため、図書館よりも身近で、対象となる子育て世帯に、よりアプローチしやすい場だからである。また、まちじゅう図書館はもともと本を通じて人々が交流する場であり、その性格から利用者が訪れやすく、絵本バンクとまちじゅう図書館の相乗効果により、新たな利用者が生まれる可能性もあるからだ。

このように必要とする人へ絵本が手渡されることで、家庭において絵本が身近にある環境を支援することができる。また、手渡す際に子育て相談であったり、打ち解ける機会が生まれたりなどの交流を生む場合もある。

廃棄絵本については、雑がみリサイクル業者に引き取ってもらう。市内では、NPO 団体がひとり親世帯の子供向け学習支援塾を運営しているが、資金面で満足いく経営ができない課題を抱えている。そこで引き渡し時に生じたお金を寄付し、廃棄絵本を役立てていきたい。

以上の形で絵本を配布し、その後絵本が不要になったら、再度回収 BOX へ入れることで絵本が循環していく仕組みである。ただ絵本が循環してだけでなく、旅する絵本のよう絵本を介したコミュニティになるために、各利用者が絵本の感想を共有できる環境も整備したい。そのためには旅する絵本を参考にし、感想シートと感想等を共有できるウェブサイトを用意する必要がある。

この感想シートを絵本の仕分けの際に、状態の良いものと中程度のものの絵本に挟んでおく。利用者は絵本に満足し不要になったら、感想をシートに記入してから、再度回収ボックスに入れる。絵本の仕分けの際に回収した感想は、事務局が整備したウェブ上で感想を共有する。利用者同士で様々な感想や想いを共有、共感できるようにすることで、ただ絵本をやりとりするだけでなく、絵本バンクへの愛着や、同じ子育て世帯としての励みとなる。

(2) 絵本の読み聞かせ推進活動

続いて、保護者向けの絵本の読み聞かせについての推進活動である。これは読み聞かせの方法や、絵本の選び方などを保護者が知ること、家庭での読み聞かせがより活発になることを狙いとし、絵本の読み聞かせ推進活動を間接的な方法と直接的な方法で検討する。

まず、間接的な方法として、絵本の読み聞かせの重要性や方法、選書方法などを載せたリーフレットを作成し、保護者へ向け配布する。また、このリーフレットに記載した内容をより分かりやすく説明した動画を太田市ホームページに掲載する。リーフレット及び動画の作成については、主に太田市美術館図書館が中心となり作成し発信していく。特にリーフレットの配布方法については、太田市保健センターと市内各小児科と連携し配布を行う。まず、太田市保健センターについてだが、市民は妊娠が分かると保健センターにて母子手帳を受け取る。その際にリーフレットも一緒に渡すことで、全ての妊婦の方へ読み聞かせについて知る機会を作る。続いて、保護者は出産後子どもの成長にあわせた検診等で小児科を訪れる。そこで小児科の待合室にもリーフレットを置かせてもらうことで、再度リーフレットに触れる機会を作る。

続いて、直接的な方法として、保育園、幼稚園、子育て支援センター等の施設での出前講座である。各施設での保護者会等で依頼があれば、職員およびボランティア団体を講師として派遣し、保護者に対し絵本の読み聞かせに関する講座を実施する。講師派遣にかかる謝礼や交通費については、太田市美術館図書館が負担することとし、依頼側は費用負担無しで利用できるものとする。太田市美術館図書館としては、絵本バンクの感想共有サイトの開発やこうした講師派遣について、子どもの読書活動や普及活動を支援する子どもゆめ基金を活用することで、活動費用に充てたい。子どもゆめ基金とは、子どもの読書活動の

振興を図る活動や、子どもの読書活動を支援・補完するデジタル教材を開発、普及する活動に対し国立青少年教育振興機構が助成金を出す基金である²²。

ここまでの活動に関連し、太田市美術館図書館では、リーフレットに載っている選書方法に沿った形で、絵本コーナーのレイアウトを整備する。また美術館の特性を活かし、子ども達にオリジナル絵本を作成してもらおうワークショップを年数回開催する。作品の原本は持ち帰り、電子化した複製品を次回ワークショップまで施設内で様々な方が閲覧できるようにする。また、ワークショップ後には職員が館内を案内する図書館探検を親子に対し実施することで、太田市美術館図書館の活動や、幅広い児童書の紹介をし、太田市美術館図書館に親しみを持ってもらい、その後も気軽に利用してもらえるように工夫する。

(3) 主体ボランティア団体の整備

そしてこれら活動の主体となるボランティア団体の整備はとても重要である。そのため、太田市美術館図書館が事務局となり、ボランティア団体の整備および関係機関との調整を行う。

まず、現在太田市美術館図書館および市内各図書館で読み聞かせを実施しているボランティア団体に声をかけ、賛同いただける方を募る。また、社会福祉協議会のボランティアセンターや回収ボックス設置先の保護者向けお便りや、利用者向けチラシを通して支援者を募る。

次のステップとして、絵本の仕分けの基準や、修理の方法、出前講座講師となるための研修など、職員とボランティアの育成が必要になる。これらは定期的に外部講師による研修を行う。職員もボランティアと共に学ぶことで知識を共有するだけでなく、太田市美術館図書館へ来館された保護者からの絵本に関する相談に応じることができれば、その後も保護者の拠り所や交流のきっかけとなりうるからである。

続いて、回収ボックス設置先や、配布先の太田市こども課、母子会、民生児童委員に対し事務局が活動の説明や調整を行うことにより、団体の活動をサポートする。

ボランティア団体の活動場所は、在庫管理や作業スペースが必要なため、市内の空き家バンクを活用し、空き家を拠点に活動を行う。空き家の整備は太田市独自の1%まちづくり補助金を継続的に活用し、整備を行っていく。ボランティア団体は活動を通し、単に絵本の仕分けや読み聞かせの推進だけでなく、ボランティアメンバー同士の交流を育み、楽しみ、生き甲斐の1つとなることも重要な要素である。

以上の提言により、子供たちへより多くの絵本が届き、読み聞かせを通し、絵本に触れることで読書習慣が定着し、創造力が育まれる環境を整備する。今回の提言については、多くの方が関わるため、場合によっては途中どこかで目詰まりを起こしかねない。そのため太田市美術館図書館は、関係者と間を取り持つだけでなく、ボランティア団体と共に学び、活動することで、より多くの保護者や関係者の意見を直接聞くことができ、日々の活動に反映することで目詰まりの解消へ活かしたい。そしてボランティア団体ともお互いに必要な情報や協力を積み重ね、支え合うパートナーとしての関係を構築していくことが、継続した取組となるには欠かせない。

6. おわりに

今回提言した、絵本バンクや絵本の読み聞かせ推進活動により、各家庭で絵本の読み聞かせが増え、子どもの読書習慣が定着していくことを願う。今回の提言は、図書館を利用しにくい方へのアウトリーチ的な支援を検討した。しかし、本当に重要なのは、これらをきっかけとして、太田市美術館図書館へ興味を持ち気軽に足を運ぶ人が増えることである。そして、この施設の特徴である、知と創造のプラットフォームとして多くの方が幅広い資料を読み、美術品に触れ、イベント等を通して交流し、本を介して人と人がつながることができることも1つのまちづくりになるのではないだろうか。この最大の目的の一部を担う手段として、読書を通し多くの子ども達が創造性豊かな成長ができるよう期待したい。

「参考文献」

- 1 第2期太田市しごと・ひと創生総合戦略 太田市 令和2年3月
- 2 太田市子ども読書活動推進計画 2019年4月
- 3 (仮称)太田駅北口駅前文化交流施設整備基本方針
- 4 太田市美術館図書館ホームページ
- 5 令和3年度太田市の取り組みに対する満足度と重要度に関するアンケート
- 6 数字がかたる太田市のすがお
- 7 太田市図書館の取り組み 2018年度統計
- 8 ブックスタート経験の有無が子どもの生活習慣や読書環境等に及ぼす影響
- 9 NPOブックスタート「赤ちゃんへの絵本贈呈事業」に関する全国調査2020
- 10 厚生労働省「各種法令による児童等の年齢区分」
- 11 子どもへの絵本の読み聞かせに対する親の考え 藪中 征代 吉田 佐治子
- 12 幼児期から小学1年生の家庭教育調査 報告書 2012年 ベネッセ教育総合研究所
- 13 令和元年度 全国公共図書館研究集会(児童・青少年部門) 報告書
- 14 親と子の読書活動等に関する調査 平成16年度 財団法人 日本経済研究所
- 15 子供の脳と心がぐんぐん育つ絵本の読み方 選び方 仲宗根敦子 著
- 16 子どもの貧困 -日本の不公平を考える 阿部 彩 著
- 17 統計太田令和2年度
- 18 家計調査通信第536号 読書に関する支出 一家計調査結果より一 総務省統計局
- 19 報道資料 「絵本でつなぐ笑顔の活動」がスタート!! (社)奈良県社会福祉協議会
- 20 まちだ旅する絵本 ホームページ
- 21 鳥取県教育委員会ホームページ
- 22 子どもゆめ基金 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部 ホームページ